

■ 成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値	
				R4	R5	R6	R7		
1	デジタル技術を活用した講座の開催数	回	8	R2	1				20
2	図書館入館者数	人	61,500	R2	90,583				230,000
3									
4									
5									
6									
7									
8									

■ 市民アンケート調査

項目	現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1 生涯学習講座が充実している	重要度 0.81 満足度 0.15			— 令和5年度の市民アンケートの結果を踏まえて、次年度に考察します。
2 公民館などの施設や行事内容が充実している	重要度 0.68 満足度 0.04			
3 図書館が充実している	重要度 0.91 満足度 ▲ 0.14			
4	重要度 満足度			

■ 施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 地域課題の解決に生かせる学びの展開	「かめやま人キャンパス」を開催するとともに、「かめやま人」認定者の支援を行い、人材育成を展開している。今後も、更なる学びの循環による人材育成を展開していく。
② 新図書館を核とした読書活動・市民活動の推進	ボランティアの協力等により、市民の読書活動の推進を図った。新図書館開館を機に市民交流の場として、新図書館を核とした賑わいの創出につながる取組も進める。
③ 誰もが学べる環境づくり	学びの情報を一元化した学びのガイドブックを発行するとともに、中央公民館講座等を開催し、市民に学びの機会を提供した。今後も、学びの機会の充実を図る。
④	
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

地域課題の解決に生かせる学びの展開については、コロナ禍による制約下での学びの提供の模索を踏まえ、「かめやま人キャンパス」の第1期を完了することができた。この中で、令和3年度認定の「まちの起業人」は、既に地域に直結するビジネスを展開実践が行われている他、令和4年度認定の「森と水の守り人」は「鈴鹿川等源流の森林づくり協議会」と連携して講座を実施したことから、協議会への携わりも含めた地域活動を展開している。また、「まちの歴史人」は、地域の歴史文化を地域住民の地域への愛着や誇りにつなげる学びを踏まえて、まちづくり協議会や各種団体で活躍され、これら「かめやま人」の中には行政委員への登用も行われている。このように、「かめやま人」が実際に地域づくりに寄与する展開へつながり、従来の知識付与に主眼を置いた学びから地域の中で学びの成果によって地域社会で活躍し、生きがいにつなげていく亀山市らしさを有した学びの在り方が確立されたことは大きな成果であったと考えている。誰もが学べる環境づくりについては、学びの模索の中で、オンライン等ICTの活用やテーマに深化した少人数での学び、学びの制約下を経過した中で対面での学びにより、学びを通じた人間関係構築の再認識があったものと考えている。一方で、コロナ禍で激減した学びの参加者総数については、社会的包摂の視点も入れながらどのように復活させていくかの実践的検証が必要である。図書館については、平成29年の基本構想策定以来の取り組みの総仕上げとして、令和5年1月26日の開館を迎えた。この開館に向け、利用者視点に立ったICT機器類の導入や環境整備を進めることができた。また、開館後令和4年度だけで57,000名を超える入館を得て、学びと交流の中核拠点であり、誰もが利用できる市民の居場所空間の創出を図ることができた。

A

順調に進んだ

今後の展開方針

学びの参加者の実数増加に主眼を置くのではなく、「かめやま人キャンパス」の実践の中で積み上げてきた学びを通じた地域活躍や人間関係構築などによる幸福度により、主体的な学び手から学びの提供者へ転化していく流れを公民館講座やそのほかの学びの場へ広げ、この中核拠点として図書館を活用していく。これら一体的な展開と併せて健康都市大学との連携とを重ねることで、地域人材の育成とそのネットワーク構築、読書を基軸とした健康的な生活環境の創出を進めていく。また、地域文化の継承拠点としての図書館機能の充実するとともに、「かめやま人キャンパス」や歴史博物館事業との連携により、地域情報発信機能の強化を図っていく。